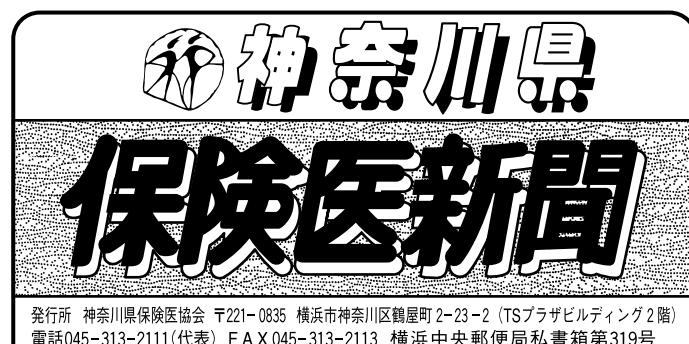


(1) 2011年12月25日

(昭和38年8月23日)
第三種郵便物認可 神奈川県保険医新聞

(毎月3回5の日発行) 第1845号付録



川崎支部版

編集:神奈川県保険医協会川崎支部 支部長:菊地弘毅



川崎支部は12月17日、中原休日急患診療所にて「在宅高齢者の食事・飲み込み困難事例の検討」をテーマに、座談会を開催。当日は耳鼻科医、歯科医のほか、看護師、歯科衛生士、ケアマネジャー、地域包括支援センター職員など幅広い職種16名が参加した。

座談会は、高齢者の「飲み込み」に関し、在宅現場で職種が抱えている悩みや課題を把握することを目的的開催。当日は、事前に市内訪問看護ステーション及び訪問介護事業所から寄せられた6つの症例を検討。田村義民氏(内科)、茂木立氏(耳鼻科)、二村哲氏・阿部哲也氏(歯科)がそれぞれアドバイザーを務めた。

一つ目の症例は、79歳で糖尿病・認知症・関節炎の女性。食事はヘルパーが部分介助している。入れ歯の使用状況は良好だが、食事や飲水時のむせ、痰の絡み、体重減少などの所見がある。これに対しては、「過去に肺炎の既往歴があるとしたら、誤嚥性肺炎のリスク

クもある。認知症なので難しいかもしないが、歯科の指導の下、是非口腔ケア

い事例。このままの状態なら、胃ろうになる可能性も」

(耳鼻科)等アドバイス。

参加者からも「車いす等で

い事例。このままの状態なら、胃ろうになる可能性も」

(耳鼻科)等アドバイス。

</